

みやぎ・せんだい協働教育基盤による
地域高度人材の育成

平成 28 年度 外部評価報告書

平成 29 年 4 月
外部評価委員会

平成 28 年度 外部評価委員会 委員講評

外部評価委員 名簿

所属機関	所属部署	職名	氏名
東北大学	地域イノベーション研究センター	センター長	藤 本 雅 彦
宮城大学	食産業学部	教授	郷 古 雅 春
東北経済産業局	産業人材政策室	室長	遠 藤 憲 子

事業全体に関する評価コメント

藤本委員：地域企業の現実的な課題解決に貢献すると同時に、こうした PBL 活動を通して学生の経験的学習を促進するというコンセプトや方策はよく考えられており大いに評価できる。また、各大学間の垣根を越えて様々な大学の学生が地域企業の課題解決プロジェクトに参画する機会を提供していることは、画期的な試みである。

しかし、メニューが総花的で運営組織体制が多様な機能組織（部会）に専門分化され、第三者などが全体像を把握することは容易ではないように思われる。また、育成すべき人材像について仮説検証型の課題解決ができる人材が強調されるきらいがあるが、個人プレーではなく集団的な課題解決を通してチームワーク力を醸成することが重要ではないかと思われる。そして、最終的な学習目的にしたがって各カリキュラムの位置づけや関係性についても相違を明らかにするなどし、その学習成果を定期的に測定するなどの検証が必要であろう。

いずれにしても、こうした画期的な試みはスタートしたばかりであり、実際に運用しながら問題解決を図り定量的および定性的な成果を検証しながら進化させていくことが不可欠であり、短期的な数値目標にとらわれずに長期的な成果を検証していただきたい。

郷古委員：関連大学の事情もありディプロマポリシーを摺り合わせた上での指標等の設定は難しい作業だと思います。少なくともベクトルが合っている必要があると思いますので、その調整のための事務局の役割がとても重要だと感じました。

- ・本事業の取組は、地域を主体的に担う人材育成に向けた重要な分野ですが、一方で、関連大学は学生の獲得や就職に関しては競合関係にあるとも言えます。そのような中での COC+ としての本事業の協働はすばらしい取組だと思います。

- ・多数の大学や機関が参加した取組ですので、補助事業完了後の継続性も見据えながら、何を各構成大学の具体的なアウトプットとしていくのかを早めに検討していく必要があると思います。

- ・評価について、評価の切り口や評価するための物指しとしての指標も今後重要になると思います。様々な業種がありその経営内容や方針も違う中で、求める人材像を一般化するのも難しいと思いますが、よい指標の設定を期待しています。

遠藤委員：事業は、多くの大学、関係者の参画の下、調整すべき事項が多く、平成 28 年度は、本格スタートに向けた準備段階と拝察しました。多少時間はかかっても、関係者の皆様との認識共有は重要と思います。単なる数値目標に止まらず、PDCAとそのプロセス共有も行うことで、長く続く、結果の出る仕組みづくりを期待しております。個々の部会で議論している内容を他の分科会でも共有し、活用していくことも重要だと思います。例えば、「教育プログラム部会」にて開催したシンポジウムにおける他地域の事例を伺ったところ、「インターンシップを就職に直結させないことで得られたメリットが多かった」というものでした。一方、「企業支援部会」における「創造的インターンシップ」に関する議論は、「創造的」といいつつ、インターンシップ=就活との議論が進められているようです。企業様には、インターンシップの段階的発展と企業成長について丁寧に説明するとともに、実感していただきながら説得を進めることが重要だと思います。いずれ成果が出るのは時間がかかります。

1. 地域協働教育推進機構 機構会議

郷古委員：関連する大学・機関が多く調整が大変だと思います。前もって各大学等のスケジュールに組み込むなど、計画どおりの進捗になることを期待します。

遠藤委員：各大学、関係者のしくみづくりが進められたものと思います。引き続き連携が強化されるよう、取組が進められることを期待します。

2. 地域協働教育推進機構 運営会議

郷古委員：運営会議や事務局機能がとても重要になると思いますので、関係大学・機関から権限の明確化のコンセンサスが得られてスムーズな運営になることを期待しています。

遠藤委員：立ち上げ期のため、なかなか実施面に議論が及ばなかったかと思いますが、しっかり基礎固めをなさっているものと拝察しました。

3. 教育プログラム開発部会

郷古委員：教育プログラムの開発にあたっては、評価も重要なポイントになりますが、この分野の評価はとても難しいとも思います。ルーブリックの作成プロセスが共有できると同様の取組を行う他大学の参考になると思います。

遠藤委員：10月の地域協働教育シンポジウムでは、非常に素晴らしい事例紹介がなされ、関係者の皆様に目標共有ができたのではないかと思います。「聞いて良かった」に止まらず、実践に移すための工夫が期待されます。

4. 地域高度人材指標開発・評価部会

郷古委員：様々な業種があり経営やポリシーも違う中、企業等の求める人材をどう一般化するのか、また関連大学のディプロマポリシーが違う中での共通の指標設定は大変だと思料します。よい指標を期待しています。

遠藤委員：4-1-2の21ページに目標とする人材像が記載されていますが、当省が推進している社会人基礎力も念頭に置いた整理がされています。学生達にどう伝え、到達点の認知とプロセスに移るのか、今後期待します。

5. 共同キャリア支援部会

郷古委員：関連大学は学生の獲得や就職に関しては競合関係にあります。そのような中での本事業の協働は素晴らしい取組だと思います。ただ、学生の就職の利益になる事業を積極的に実施することが目的なのか疑問に思いました。

遠藤委員：5-3にあるような学生と企業の交流会は、貴重な機会となるものと思いますが、他のプログラムとも有機的に連携して、成果に到達できるプロセスの見える化、検討もお願いします。

6. 単位互換部会

郷古委員：学都仙台コンソーシアムの単位互換もそれほど実績を上げていない中、学生のニーズも含め、コンソーシアムの単位互換のスキームのどこに問題があるのかを分析することが単位互換の実効性につながると思います。

遠藤委員：共同の拠点づくりも評価できると思います。取組をさらに進めるため、ソフト面でも、各大学に名物先生を作ったり、大学×得意科目の認知を進めたり、2コマ連続で一週おきのカリキュラムを作るなど工夫はできると思います。

7. FD/SD 部会

郷古委員：COC+推進コーディネーター認定に係る方法は今後検討されていくことと思いますが、どのような資格認定になるのか、今後の取組に期待します。

遠藤委員：大学の教育水準を向上させるFD/SDの取組に、COC+推進コーディネーターがどのように関与し、またどのような役割を担っていくのか、整理が必要だと思います（見落としがあれば申し訳ございません）。

8. 企業支援部会

郷古委員：創造的インターンシップの定義からは、どの部分が創造的といえるのか疑問に思いました。また、インターンシップの中での単位化、評価をどのように行うかも重要だと思いますので、今後の検討を期待します。

遠藤委員：企業にとってのインターンシップの役割について、理解を深めていただくことが重要と思います。就職を前提にしたのでは長期的には難しいと思います。まずは実践で成果の出る事例が必要だと思います。

9. 高大連携部会

郷古委員：地域型キャリア教育実践モデルについて、パネル展示プログラムを作ったことでモデルの開発がなされたとしていますが、そのモデルの内容を明確化し今後の活動に繋げていってほしいと思います。

遠藤委員：重要な部会と認識しております。将来的には、小中学生に対しても波及効果が期待できます。それぞれの段階で必要な学びがあるものと思います。地域で人を育てる「宮城モデル」が形作られることを期待しています。